

閣僚の靖国神社公式参拝に対する抗議

過日（二〇一二年八月十五日）野田内閣の閣僚二名が靖国神社に参拝されたことに對し、全日本仏教会として強く遺憾の意を表明いたします。

私たち全日本仏教会はこれまで再三（本年は八月八日付）にわたり、「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を行ってまいりました。

私たち仏教徒は、釈尊の御教え「いのちの尊重・慈悲の精神」に反して、戦争にかかわったことへの反省の上に立って、争いのない世界を目指して活動してまいりました。そして、戦後の日本が平和社会実現に向けて努力してきたことに誇りを持つと同時に、これからも国際社会で平和の実現に向け活躍すべきと願うものであります。

首相及び閣僚は、とくに憲法に定められた「宗教の自由・政教分離・戦争放棄」の原則を遵守し、世界平和貢献のため指導的立場を貫くべきであります。

今回の参拝は、公人としての立場とその使命を自ら放棄するものであり、多くの国民の願いを無視するものであります。

よってここに強く抗議すると共に、首相として閣僚への指導力をさらに発揮し、今後は靖国神社参拝を中止されますよう強く求めます。

二〇一二年八月二十四日

公益財団法人 全日本仏教会

理事長 小林正道



内閣総理大臣

野田佳彦 殿